



家族を守る力になりたい



前衆議院議員

大島  
あつし

プロフィール

埼玉県生まれ / きたもと幼稚園 / 中丸小学校 / 北本中学校 / 京華高等学校 / 早稲田大学法学部卒業 / 日本鋼管 / ソニー生命 / 2000年衆議院初当選 / 2017年7期目当選



衆院予算委  
国会中継

「地元の中には日本のすべてがある」と考えています。地元を歩いている中でお聞きした声を聴きながら、いま、地域や国政の問題で多くの方が困っていることや生活に直結するテーマについて、国会で取り上げています。

地元暮らしに暮らす皆さまへの取り組み

昨年2月以降、皆さまの「生活の安定」と「事業の継続」を念頭に取組んできました。

私の事務所へも多くの皆さまからご要望やご相談が寄せられましたが、その一つ一つに、できる限りの対応をして参りました。

例えば、昨年からの国の支援制度は、ほとんどがインターネット経由での申請であり、事業経営者様の中には「申請方法が分かりづらい」、「郵送で申請できないか」等のお声も多く寄せられ、申請自体が極めてハードルが高いものであったのではないかと実感しています。私の事務所では、法令順守のもとに分かり易い説明をさせていただきました。

また、ワクチン接種も各自治体でスケジュールが異なりますが、最新の情報はインターネット経由で確認することになります。そこで、私の事務所では、「ワクチン接種スケジュール」として一覧表を作成し、週2

回の頻度で改訂しながら、皆さまにお届けいたしました。先日、上尾市にお住まいの方から、「住んで半年なので、医療関係は全く分かりませんでした。3ヶ月前にワクチン接種スケジュールを車で受け取り、予約の仕方など大変助かりました」と電話をいただきました。

そしてこんなこともありました。今年4月末、私の事務所にご高齢の女性の方が駆け込んでこられ、「ワクチン接種の予約が取れないので何とかしてほしい」と訴えられました。たまたま、事務所にいらしていた若い方がスマホで予約をして、後日、無事2回目の接種が終わったとご本人から連絡をいただきました。

以下、これまでの取り組みのいくつかについてご紹介します。

- 地元で運送業を営む方から、「荷主さんの仕事が減ったためトラックの(裏面へ)

インターンシップ生を受け入れて

私の事務所では、夏休みや春休みに大学生のインターンシップ生を受け入れています。インターンシップとは、学生が企業や団体で仕事を通して就業経験を積むことです。インターンシップが終わった学生の感想が寄せられましたのでそのまま掲載します。

「まず私がついた代議士は、とても選挙区民を大切にしており、自ら後援者の自宅へ出向き、雑談や現在の日本に対しての意見に耳を傾けたりなど交流を欠かしていません。実際、私が後援者訪問した時には、後援者自身から『大島さんは元気かい?』などといった言葉をかけられ、日頃から代議士が国会議員という役柄で大きな顔しているような人ではなく、後援者と近所の友人のような関係性を持っている姿勢が伺えます。地元民を大切にしていると前述しましたが、もちろん全国の国民のことも忘れてはいません。特に就職氷河期世



代やいじめ、暴力を受ける社会的弱者に対しての思いやりを持っておられる方で、インターン中に何度も各省庁、企業とミーティングやレクチャーを通して、彼らの救済に関して予算の不足などを指摘したり、実際にサービスを見学しに行き、アドバイスを提供したりと熱心に考えておられました。まさに全国民の中でも救済すべき人を分かっている方です。また、担当している各省庁や企業の方も『大島さんのお願いというからには、張り切ります。』といった言葉が多くあり、本当に国民だけでなく、各業界からも信頼してもらっている方なんだと感心しました。」(M大学 法学部1年)



海外の現場から

香港で行われた大学教授による国際セミナーに国会議員としてただ一人出席。率直に考えを伝えることで信頼を醸成し、平和を構築し、国際貢献に取り組む。



地元の声を聴く

「地元の中には日本のすべてがある」と考え、地域に暮らし、活動されている皆さまの気持ちを体現し、取り組む。

台数を減らし、ドライバーさんにも休業してもらうので休業手当を支払いたいが、手持ち資金が無いので払いたくとも払えない。」との相談を受けました。そこで、労働者が休業手当を直接請求できる「休業支援金・給付金制度」をご案内しました。(運送会社)

●地元の洋品店から売上が落ち込んでいるとの連絡を受けましたので、一時支援金(2021年1月～3月における事業者向け支援金)について、資料を持参して説明しました。「飲食店でなくても支援金を受け取れることを知り、本当に助かりました。」とのことで、商店街の知り合いや営業に来ている方にも伝えたとのことです。支援金も受け取ることができました。(洋品店)

●地元の歯科医院より、「パート従業員へ休業手当を支払いたいが助成金や補助金はありますか。」との質問をいただきましたので、特例措置として、パートやアルバイトの方へ支払った休業手当を国が助成する「緊急雇用安定助成金」があることをお伝

えするとともに申請方法についてもご説明しました。無事、助成金も受け取れたとのことです。(歯科医院)

●介護事業者向けの慰労金について資料を持参し、申請方法をご説明しました。

結果、受け取った慰労金を2020年12月に手渡すことができ、ヘルパーさんのモチベーションアップにつながりました。(介護施設)

●新たな事業展開を検討している製造業経営者の方に、「事業再構築補助金」について中小企業庁発表の最新の情報を提供しました。コンサルタント会社に頼ることなく、無事に補助金を受け取ることができたとのことです。(製造業)

●当事務所のスタッフが利用しているファストフードで働く女性従業員より、「店舗の突然の営業停止と賃金の未払が発生している。」との相談を受けましたので、相談窓口をご紹介します。後日、労基署の支援もあり、賃金は支払われたとのことです。現在は、別のチェーン店で働いている



地元には、日々技術革新に挑戦し、パラリンピックで使用する義足の部品を開発している企業があります。挑戦し続ける企業は日本の宝です。



これまで、都度、保健所を訪れています。保健師さんからは、感染が広がると24時間、不休で対応にあたられていると伺いました。新規感染者数は減少していますが、まだまだ予断は許されません。(写真 北里研究所で治療薬開発について伺う。)



### 新型コロナウイルス感染症対策を主導

2006年、厚労委員会で他国に先んじてのワクチン開発の重要性を指摘。コロナ特措法では衆議院での附帯決議案作成を主導。今後は、国の安全保障として、ワクチン開発、感染症流行時の医療供給体制を整備する。



### 国民の負託に応える

立法府の役割は、自ら法案を作成すること。研究開発力強化法案は、法案作成者として参議院で答弁し、可決成立した。これからも国民の負託に応えたい。

そうです。

●2020年の春の叙勲に際して、叙勲を受けられた方から、「皇居での拝謁が中止になって残念」と伺いました。内閣委員会の質疑で取り上げさせて頂き、官房長官から直接に連絡があり、ご本人のみですが、宮中の見学と写真撮影が行なわれることになりました。

●2020年秋頃ですが、新型感染症対策への要望を伺っていると、「お店の撤退に伴い、郵便ポストが撤去され、自宅周辺のポストに歩いて投函できなくなった。」とのご意見が寄せられました。早速、日本郵政に連絡を取らせて頂きましたところ、日本郵政は早々に現地調査を行いました。その結果、設置基準を満たしておりましたので、近くの自治会館にポストが新設されました。

●2020年3月、「道路交通法で求められる講習や免許の更新が運転免許センターで行われるが、教室が満杯で新型コロナウイルス感染症のことを考えると感染しないかヒヤヒヤ

する。」と電話を頂きました。鴻巣市にある運転免許センターには、毎日2000人を超える方が埼玉県全域から来訪されます。今後、感染リスクの恐れが高くなることを考え、電話にて、直接、国家公安委員長に政治的な判断が必要ではないかと伝えました。その後、警察庁から連絡があり、2020年4月16日から、運転免許センター及び各警察署での運転免許更新業務等が一時休止となりました。2020年6月1日からは再開となっています。

●2020年4月、東京でタクシードライバーをしている40代の方から「これまでは1日5万円の売り上げが見込めたが、今は1万円にまで減少し、月収は10万円に落ち込んでしまった。個人向け緊急小口資金の申し込みをしたが、色々聞かれた上に断られた。」と訴えられました。これまでも20万円までの緊急貸付制度があり、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた方には、柔軟に対応するように厚労省から都道府県に通知ができています。その旨を関係各位に連絡させていただきました。